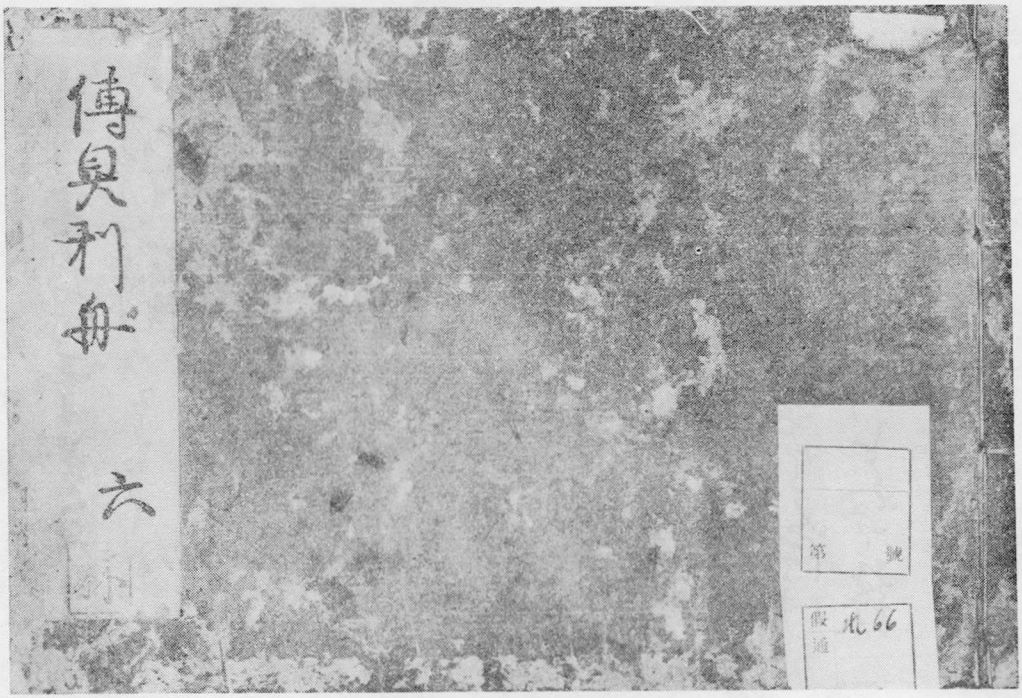

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive

Title	影印『手繰舟』巻六
Author(s)	
Citation	語文. 1980, 37, p. 23-58
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/68667
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

手繰舟　六

傳具利舟　六
第　號
假通　ル66

四海波静にして民の草
葉迄も松山さゝくさゝとひ
もね乃舞鶴羽うちくとひろき
てたちよかけ其六尺なれは泥も
錦之とのへしてうつくたとや
千世万代とたのしむ時なり
あるわて寛文六年秋の序
十日の夜西吹風すさましくう
み仲乃ゆさい柳くやにやうに
守りて堺の浦戎乃くなり
新像浮出来られやくあ
天形くなりしとるや文同

年前厚さ山和よ男恵比所
うかひあらわれもし恵久
時君といひ又五惣右衛門
千来にめくひ墨葉乃うつに
拝所さらもかゝしくてかる
つよ出代乃あか瑞ゐくしこれ
湊乃ハ大船数十と入へしかれ
八所の人云さうし集りて首ち
此ふよみのこ人石像の恵美須
象て文よ板橋と修し神会
と建て戎像又恵比名付け
新造の人家新と叙て教

逍遥乃地と成さん此川乃
あことしる寺ハ今て枕れ
下れ潮ありけれしまくす乃
新ろこと見く貴さぬ影隣
乃ほよ寄の手て遊興多光
多し次おハなをれころ傳南少よ
須臾そ四国乃山多けにかさ
なり北ハ伊駒乃嶺葛城の
峯雲よの伝ろく南そ
紀路乃遠山和泉れらし良
よ立渡しなめ小舟ゝ住吉
難波乃浦よりこきて武庫の

奥なる山も雲乃中にみえ
へしたにて此境ちか
かと此人そさしもい名をく
ゆう青りり見て朝夕あかめ
まれぬる人帝れなくにして
此浦乃盤景今こそおなしと
みさらわちされハそなくれ
さしの或ハ詩哥を作り或
ハ連俳ありて此詠をきゝ
かく半すさく沙事せり
さてハあ遊と此まゝ満れ屡居
もこらかにくて伸しも果し

くて今かき集むるもくさ
舟れにねくだけぬ荒ら
ともめくこるしかるす
よなかにしるさ

維時寛文十一年
辛亥之朱律
阿知子顕成

手繰舟巻第六

戎福
発句会

春

芦原の福乃子出るや宵戎　堺　去拾
はき寄るや福乃子集宵戎　同　一守
ふきうも又浦乃初福や宵戎　同　宗満
宵や福てはるかに毎宵戎　大坂　友信
庭よ火て出影と拝め宵戎　堺　吉次
新福乃守護にこくへや宵戎　同　孟恵
家国よめていひ出るや宵戎　同　修能
出来福や主名ひとつ又宵戎　同　正重
鯛や子て作る恵福乃宵戎　同　向居

福の景や紀の海年山宵戎　平野　宗静
新川も又新福う宵戎　堺　宗貞
新福や在はにて名と宵戎　同　利貞
新福や神も何まつ宵戎　河兵　宗貞
新しき福乃在も豊宵戎　布施　一志
おくはる名や新福の宵戎　堺　玄諦
堺浦や是も今又宵戎　同　久成
出来の舟や流に福乃宵戎　泉尾　全休
掛鯛やしかい堺の宵戎　堺　信敬
うこなき巌や福の宵戎　同　[illegible]
福乃森まくもなしわの戎　同　向吟
此福八久てき色とう宵戎　同

足も鴫乃出にうこる若我　堺　永重
若我宿や堺ちかき西の丈　同　宗英
春宿やらくわの点以く万葉　江戸　重昌
蓬莱にかゝりていつ入出は宿る　大坂　梵見
宿の名乃我おもや雲の雲　堺　顕成
宿の名乃我宿もかはすゞ　同　宗満
新玉の古家や十月我宿　同　光也
那かめ秋や嵐を正月我宿　同　好重
濱の鼓くやは宿乃無にけふ　同　一廣
文立つ春とかいすの宿乃雲　同　正翁
石の我出ずや如や宿の雲　同　正重
宿はあゝはかえんねの石の我　同　貞伸

船幕とまり氣色や我宿　堺西　治之
お雨夜もわれ家坐や我宿　同菊　以之
我宿や堺はゝる浦の雲　同　如幻
尾上川や我宿かくに夕霧　同　方寸
我宿の霧乃暗や堺織　同　光也
苗代乃まゝ月や我宿の迎ひ　同　長正
竃宿や夏の都かみの月影下　同　利貞
我宿よ心やうきさ木花の波　泉州　武宗
我宿や蓑を嶋るあるがゝ　堺　如水子
我宿や古家のたゞ桜鯛　住吉　宗俊
我宿や海路乃皆を桜鯛　堺　琴羽
桜鯛もてあましや我宿　大坂　重賢

梅鉢にか蘇ゆゝし我仏　同　長房

物乃気もさまや杉人我仏　大坂　一六

まゝの海意毘沙門を定て我仏　希望　宗春

夏

わきかへらうしハ絵仏絵屋仏　堺　長治

我仏や霞と松中郭公　同　宗満

絵仏や泉の万寒の神茶　同　玄於

五月雨ハ汲かえ雪の名盛　同　那成

得ゆの名の絵も甲ゆき今夜目和　同　定之

我仏やしへもつきぬ仏太　同　利貞

玉ゐ垣かけ候涼し我仏　同　宗貢

そて見ん佐に涼しや我仏ばかりし　伊丹　宗矢

其人ハ涼し命もまゝの我仏　堺　忠也

水涼しくさゝおちやこの我仏　同　貞房

夕涼し名よ盛降ゆの我仏　同　貞倫

雨よきるの絵仏や夕涼ミ　同　宗英

松やしん水無ハ涼し絵の仏　同　永重

竜鳴よく名のたつ玉白泉ハ　大坂　一六

絵ハ百籟のおもしや得夜神楽　堺　万庚

涼風やいはいゆくうち我仏　同　興義

秋

西の方を秋半おもしてや我仏　大坂　一六

関うちは松虫や秋風は生業　堺　石帳

涼しさや雲るにぬ我　同　助信

草は清や我乃面し浮心小　同　露岐

秋風乃芦中にかゝや名月よ　大坂　倭友

三日月やはれ柏我影　堺　寅

夜は舟や雨てりむすびて我影　同　之杵

影さぬ我大道尾や月は舟　同　吉

水は眠てゝ月の影我影　同　京寿

月やにゝのかげぬ石我　同　経光

亀影乃月を万年限んへ　大坂　松宏

秋影や月乃かゝみぬ我秋　堺　一守

影乃月やかゝやくひとよの我奇　同

是や秋の甲斐なき名月乃晴乃月　天王寺　宗知

飛鳥して月やと人ゝ我し影　堺　巽叔

出来影乃月見人ゝ我とならぬか　同　吾也

此影は名秋を流し月は宗　泉大　全休

後し今は庵ちりし我影　堺　貞房

後ら名へ作し秋勤めの猿　大坂　一六

初ゆうなけるあるゝれ我影　堺　宗

秋影やされ初ゆふとくまん　大坂　正次

降けは井桓影とほや我影　堺　経光

東秋もはれ地よう影　同　宗満

冬

霜枯や芦あはれにして我宿　大坂　玖也

注連縄も結ぶや鶴の我旅　堺　貞房

風ふるし浪乃眼さん我宿　大坂　一六

大雪に淋すこしほの我宿　堺　宗満

鶴の名の亀も尾しらや宿　同　為露

たける私や是もお次様我宿　同　巽和

おもて網も冬きうまみに我宿　同　玄於

此神楽の笛の朗や我宿　同　是之

鶴乃名乃我舞するや神楽神子　伊丹　千利

我宿の神楽ハ浪乃鼓かな　堺　宗満

新鶴や文とき世に私が亀かな　同　友之

此神楽や宿乃名たかみ亀舞　同　依然

冬に残る声や一尾の亀乃鶴　堺　頭成

君の代乃久しきを祝しけり
門あるはゝ爰に石岸憐と云る
まうとせらまわちして此所高き
めのとも俳諧乃発句をあつめ
数ありけれはひしていろく詞林すて
判しふるに志ほまの風作数多
同列ゝ連てそめつゝしけるはし
あさみえ発句をあつめて勝まけ
乃ふわを定むへよしいろく
短も叶るを計し作さひく
国辞源といへとも越ぬれ
りろく一流をひろ乃下ま右一句を

かけ事侍るも且ハ金玉とけう
し且ハ人の拙いひさまき
世をいふよわかもひてなつく
ひとへしさてまみのなつし

寛文九年三月中旬　松山玖也

作者

左
狐塚風窓
濱見川鶯菊
二沼風芦
花園雪駒
菊田鶯渕

右
松罡風鈴軒
鳴川鶯簫
江網風鴫
中寺風蕉
小川柳檣

百番俳諧発句合

一番
左 勝　元日
狐塚風窓
流れるもね岩根乃岩から松
右
松罡風鈴軒
やし棚やの見えても程のまの方
言ふ祭やよくぼくろみて鑄松

二番　初芝居
左 勝
濱見川鶯菊
よ色太鼓せんきゝものや初きゝね
右
鳴川鶯簫
花ゝ乃方もころ〳〵ば通れる初芝居

初芝ねくれもころや人を大故

三番　水掛祝

左　持　　二沼風芦

縁しとや沖中河乃水いはひ

右　　江網風鴨

としかれ乃神代もうくや水河ゝせ

友達や生りうる我水祝ひ

四番　若菜

左　　花園雪駅

摘まとや先んはうりてうくひすか

右　勝　　中寺風蕉

摘んやをちまれかとめうくひすな

右乃まま先もてはやさる若菜

五番　吉野餅配

左　持　　菊田壺園

ちしれ山きしせぬ雪ら餅とはわ

右　　小川柳橋

吉野山なもまれにころや餅くりわ

とわくやいつまでもよ此餅配

六番　薪能

左　持　　帆塚風窓

神ゝ能や薪まちをおり乃内

右　　松罡風移

春日野や袖あらそう神ゝ能

まけじとやたかひにはな新條

七番　猫妻恋

左　勝　淵見河の堂菊

妻こひのうかれしあまりか猫縁

右　鳴河の堂蕭

妻戀しなをよ勝する男猫哉

心ひくうゐや妻よ猫のれか

八番　春駒

左　持　二江風芦

是もまたひとれをなそう春駒

右　江綱風鳴

春駒やたえうけていさを花一樣

春駒ハ遊道もとらぬ名句哉

九番　海苔

左　花園雪弥

櫻狩のよそでは流るもいろの濱

右　勝　中ち風蕉

うらえまや足もきれなの文珠苔

櫻井のまちくもまさる文珠苔

十番　防風

左　勝　菊田堂園

白濱より赤くいろある防風哉

右　小川柳橋

りやして眞砂球る次防風哉

白濱に出る人ハ每に防風哉

十一番　種蒔

左　　　瓶堀風言

田の玉や古き哉欲しき植おろし

右　勝　　松巴風杉

宮様世や都乃諸縁に蒔（種）

文様世風蒔ましく人の蒔れ哉（摘）

十二番　麻蒔

左　　　湖月堂菊

一まきのまくや手ぎは風の麻

右　勝　　鳴呼堂蒲

まくくやむ心ともしらず麻つけ

蒔人乃名そなつかしき橘麻

十三番　枸杞

左　　　二沼風芦

みとりあるはかり二葉やくこもろ

右　勝　　江綱風鳴

摘入るゝくこ（茶）湯見や草の片壷

二葉よりいよ八方後乃くこ茶ハ

十四番　田芋

左　　　花園雪驢

もり濡に袖ほかりくゝえぬけ

右　勝　　中島風蓮

あひちるやわかち田子かはる烏芋

跡も皆こひちと吹田烏芋哉

十五番　柳魄

左　持　　菊田定圓

駒の糸やほすてむ川よ柳之

右　　小川柳楊

釣竿やゑ川をつる柳之

合すれしかゝるなりぬるし柳魄

十六番　烏巣

左　　狐塚風宣

ゑれ玉子あく達観ゑ巣ゞ哉

右　勝　　松呂風秋彩

風吹かぬ世なしの木にれけ巣哉

とのゝ尾はさえもらえとうけ哉

十七番　涅槃念佛

左　　湊入河宗菊

鐘乃音や何としよふるは念佛

右　勝　　鳴河宗篇

わ浮まゝするむとかゝみ乃は念佛

志れからなに志りくと涅槃念佛

十八番　壬生念佛

左　勝　　二浮風芦

六乃陽をくらし達てよ壬生念佛

右　　何納風路

嗅むれねわらをこせみ不念佛

六乃縁やく亂れ作ゑて念仏

十九番　花

左　勝　花園亭駒

ちりさきしとむもいくへ乃しら紙

右　中ち風直

月と花紙かく所おもしぬりん梅乳

かきしてゝ手習しむれの料紙

廿番　桜

左　菊田宗圀

写すともほゝてよ深し板木寸

右　勝　小川柳橋

思ひ出む都の空へ江戸下桜

一句ま江戸乃花も実そ人乃江戸桜

廿一番　桜網

左　秋塚風宗

おてまりやむなかきもさして網

右　勝　松岡秋和

桜あるゝお前の網やらし野山

お前より天下一枝乃さくら網

廿二番　烏賊幟

左　持　浅乃舎宗菊

下なりて天は空ゆやいかのほり

右　鳴石宗蒲

旅風や雲まいろ流くいかのほり

なかれねや四天二天よいつれなり

廿三番　梨花

左　勝　二洛風芦

月かけや雲ねむりしてなしの花

右　白網風路

四ていくいつ形らう黄なる花

金言や雲かおおき梨乃花

廿四番　蘇枋花

左　花園雪歩

秋旅や杖なのしるみむすそう

右　勝　中る風蕉

えひうめよはくや蘇枋乃むしろ

えひ深や声も一入乃こゑすゝう

廿五番　躑躅

左　持　菊田墨則

山後しるる手をまよわて飛行し

右　小川柳橋

もとし山の声乃続ちも無くし

煙るへひらつおもひら霞行し

廿六番　首夏

左　持　瓶塚風宜

夏きてやらうしほまぬと入けり

右　松巴風柳

かけうへらまるこ分つれもまちともれし

よしゝ下めにけゝかまきまきれ

廿七番　芍藥

左　勝　　沾凡沼堂菊

すゝまれは代々うきゝや将軍花

右　　鳴海其蕭

むしゝけりや菩薩の名をらむ

誰か代下にかくれね将軍花

廿八番　郭公

左　持　　二泊風芦

黒うり出六香ともにまみけ郭公

右　　仁綱風鴫

村雨やなかんあひたのねまかれ

あらしよや毎代耳かる郭公

廿九番　諫鼓鳥

左　勝　　花園富郎

旅乃まきう乃おちるれん之鳥

右　　中寺風蕉

さひしなや心よ何まるか寺こる

書けよ陀らつくてん鳥向かへる

卅番　致食鳥

左　持　　菊田堂副

ひく波らよるまゝなかのかくひゆか

右　　小川柳橘

蝙りりまやならへく蚊くひる

無量とみゆ糺ハ卯か殷喰る

廿一番　蛭

左　勝　瓢操風兄

吸つきハ足へさゝすして田蛭糺

右　松岩風於

無殘すへハ蚊も弁すか哉遠しく

吸勝てさゝし換代ひるとか

廿二番　沖膾

左　持　濱見川公菊

何魚をつゝ妻はまゐよ沖なます

右　鳴呉堂蕭

不料理やしもなまの沖膾

句作のやいつまもあすてし沖膾

廿三番　日光參

左　持　二坂風声

明らけき世や日光乃神祭り

右　江絹風語

上もなし日光山の神祭り

左右ハせを合せて日光參り

廿四番　松前渡

左　持　花園雪驛

松おやまるゝる風奥か屋

右　中る風直

はやみふね達松前へ渡日哉

松まへや萩しらぬまを爽ゝ鳴

丗五番　端午

左　　　　菊田堂剛

八棟やゆふかほる晴れ軒乃菖

右　勝　　小河柳橋

竜の絵も幟すくなし氣はち

八棟のうへはちらす紙のぼり

丗六番　早苗

左　勝　　瓶塚風雲

うゑる田に稲数までの秋やそゝぐ雨

右　　　　松居風楳村

早苗とる手にはしる秋を一まとめ

うゑる田に稲も心やそゝぐ雨

丗七番　黄雨

左　　　　湊乃河堂菊

火を今くすれ心より黄雨哉

右　勝　　鴨河堂菖

いかしく乃あかしなふひに黄雨哉

身は文にゐるものゝなりぬ黄梅哉

丗八番　花柚

左　　　　二河風草

酒のあふる枝より出ぬ花柚かれ

右　勝　　江綱風路

いまさらて花柚咲にもかゝん小鳴海

ふむ袖らし思へはそてらる小鴨酒

卅九番　沙羅双樹

左　持　花園書驢

はくゝむハ鶴乃子をしらう沙羅双樹

右　中村鳳道

花ハ蒼くすゝの代りの沙羅双樹

まさりとも[illegible]つ[illegible]ら也沙羅双樹

四十番　風車也

左　勝　菊田宜渕

花ハ鵜や羽團扇なりに風車

右　小川柳橋

氣や吹よりさける風車

羽うちを頭もはてや風車

四十一番　下野花

左　勝　瓢塚風之

ちも流氣むしにあかぬ紙結構ん

右　松葉風移

下野れむいけて流乃中之入れし

下野の花をかくれ香もゆかしき哉

四十二番　百合草

左　持　淵見河斗菊

むし乃家ハさかる油の車ゆゑ

右　鳴川笠蒲

花の香ハてらさる鉢の車百合

ゆふくれや蝶しもまよふ花も車哉

四十三番　風

左　勝　二派風声

ひやしてや白水も耳によき音風

右　白綱風路

むかしとはけ風乃さまさん宮乃烏

味へハうろつま耳しまくへの風

四十四番　白玉

左　持　花園富郎

むかしハむかしてまやゆかしひ玉

右　中山風蓮

夜露をやうきてしらぬの白玉

夜神よ幽風おもし白玉

四十五番　薫風

左　勝　菊田豊劉

くんするや百草乃外と南風

右　小川柳橋

かうくさん荷葉乃池乃みな風

薫風や荷葉をとりて百草一

四十六番　冨士詣

左　持　狐協風巴

鳥よりも飛乃やうねと冨士詣

右　松岩風花村

何まてさりつよ岑や雨居まで

思ひや同じ一人留主まもて
四十七番　湯かた
左　持　浅見何堂菊
身れうへよかしく人垢離ゝ湯かた
右　鳴河其蕭
心ひとくはすましてうとる湯かた
其意尤すやそねや心湯衣行
四十八番　凝海藻
左　勝　二江風芦
冷してや水草は清ところてん
右　江網風鴎
白器や粉をするところてん

こゝくにやせんし探して思ふ
四十九番　汗
左　持　花園雪驛
水呑ひ汗やきれてみる乃月
右　中寺風道
川舟や綱とりむ乃汗流く
汗未形しそれやまろ乃河
五十番　納涼
左　菊田其則
酒をとのく風よのうむや夕象台
右　勝　小川柳橋
水涼し月をまく光る白茶碗

声までに水よふくるや夜の蓮

五十一番　七夕

左　持　孤城風宮

織比賣も妻乃名あり二星

右　松窓風梧彩

鵲の橋うけしまゝや星乃中

はくろうに鵲乃橋やかけ見ん

五十二番　玉祭

左　勝　淋乃河岸菊

誰も見ん何よ沢中し玉まつり

右　鳴河岸蘭

風尾草や乗木も句ふ玉祭

以つへよ何よやさん玉祭

五十三番　花火

左　持　二派風芦

ちぬ貝袖乃中なる花火ハ

右　江綱風路

前乃中ハ木葉もこぬ花火ハ

きくねまハ那しい心乃花火ハ

五十四番　相撲

左　勝　花園雲路

ほくくまれかへつてとるや曲すまふ

右　中る風蓬

又すまふや行つ立行句で　勝まさる

ゆくくるやたちさはき勝すまふ

五十五番　相撲

左　　　菊田生剛

まけりてや六根乃罪を六相撲

右　勝　小川柳揚

祭宮もとよするや雲井相撲草

心とよする雲井相撲乃祭り

五十六番　峯入

左　　　狐塚風三

峯入やよひのめくひに法螺乃貝

右　勝　松碧風梅影

かけ出やいくへ越来ね峯かさね

峯入はいくへ越るかけ出られし

五十七番　名月

左　持　濱見川笠蘭

ゐる坂やのほりてされハ名乃月

右　　　鳴河笠蘭

名の行や天まのいつ次秋乃月

同夜や天のくもりし秋の月

五十八番　蜻蛉

左　持　二江風芦

秋ちかき暮るさや渓乃山とんぼう

右　　　江綱風鴻

かのこしや赤とんぼうや雲のかれ

雪や降る担行しもなき赤えひかな

五十九番　鶴

左　勝　　飛園雪郎

めつらしき句にも鳥や川ちから

右　　中寺風蘆

飛帰なうよ出て声や川ら流る

川勝て尾もも鳥乃はしらく

六十番　鮭

左　勝　　菊田豊閑

京乃人やほしかる末のさけ魚

右　　小川柳橋

切目くらねも承はまれしさけ魚

京人乃句めくらしまの鯆の魚

六十一番　鯆

左　持　　狐塚風之

川もけやかの乳も何へも鳴かしう

右　　松家風彩

かしまの声やまうみなの乳川

水乃底まろつ色もよいかしく

六十二番　麻

左　持　　淺見竹菊

山さらにかすらに高くや麻乃苗

右　　鳴海梁蒲

かま道なそやまいおばな風しらぬ苗

男顔なやらみえて二管笛

六十三番　鳳仙花

左　勝　二俣風芦

鳥もとまるえさのまつよし鳳仙花

右　白綱風鵡

見へやさん腰よあるは中へ鳳仙花

ゆせんよ腰よ何を取ハ鳳仙花

六十四番　薬掘

左　持　花園言郷

あるぬ乃煖気もよきさら杜丹の根

右　中る風道

ほるほよ掘えるわれバわり桔梗乃根

えれしれ腰や味りまくまうめり

六十五番　茜掘

左　菊田堂閑

出もして西まで秋もほる赤根

右　勝　小川柳橋

山人やこゝろを見えくはるなり

花をおもふ心のいろや赤根掘

六十六番　芥子蒔

左　持　狐塚風宗

四乃腰九乃月めやけしれ蒔

右　松宮風珍彩

腰まゝもいつゝゝ見えてかうけしろ

こまつ形るぶからおしくれし比よ

六十七番　蒲萄

左　　湖月庵笑菊

こぼるゝほどまでうれし露や萄乃雨

右　勝　　鳴川笑蒲

ちよくにうけくいも晴らしやうら酒

秒よりしは重陽よりやうら酒

六十八番　野分

左　　二流風芦

奥の間も人を戯しては野分かな

右　勝　　以綱風鶴

塀矢くぬ野分の風よ楯もなし

野分てよ風の射る矢よ楯もなし

六十九番　茸

左　勝　　花園堂駒

東まさりほるゝにても松露乱し

右　　中島風匡

針茸やふほもぬかずよ苔衣

もてなせし田まよそて送る松露ハ

七十番　柘榴

左　持　　菊田宗則

笑ぬるをへり公告ら耳さくろ

右　　小川柳橋

酢ふかるゝいくつ粒のや楠のまよ

くへさくの汁吸し跡さびしすゝき

七十一番　極實

左　勝　杭塚風之

むさしの都はなれけりやせかや

右　松岩風柿

と山木々の葉やよや乃いろ

よさくへ乃むへもいひそかけれや

七十二番　梅嫁

左　持　浅見四季菊

雛はばのむもと根さしや梅のとき

右　鳴海宗蒲

むちるは今をまち遠ら梅のとき

梅のふ六いつ迄すゝ人多も白し

七十三番　秋葉

左　持　二石風草

寿さひらぬめまりめつく涼しさや

右　白鯛風路

なきてみしや白川か流る宿

秋しきれ六白川よ宣葉

七十四番　紅葉

左　花園香引

杉冬やのみちよいくへかさね山

右　勝　中寺風蕉

わるちらや紅葉ふれつみ楊乃雨

橋のうへ行はおもてもみだれ哉
七十五番　暮秋
左　勝　菊雨堂岡
行秋乃わすれかたみを書竜ハ
右　小川柳橋
書風声や東調乃一句秋の暮
ぬけ出し扇を摺て書斎ハ
七十六番　冬更衣
左　持　瓢塚風之
綿入や身もかろうする衣かへ
右　松岳風行彩
岩の苔やさしうもまとはれ衣かへ

かまの先ハ何事もしよましさ夜更へ
七十七番　小春
左　勝　浅見竹窓翁
小春にもあるやハ何に通り小春ハ
右　鳴海紫蒲
日乃足とむるはまき小春ハ
古屋敷も是ハ新造の小春ハ
七十八番　神無月
左　持　二酒風芦
かくはられなる山もさひし神無月
右　江綱風鶴
猶更やあかにえせる神無月

ひとりなに二まくや秋のおもる菱
七十九番　亥子
左　勝　花園音部
ちきりかはれしるしはいくよ亥の子餅
右　中る風道
君か代や流くるも尽し亥の子餅
けふまさくらちからやおほえ亥餅
八十番　十夜法要
左　持　菊田墨関
心りりもさすも月かな十夜八
右　小川柳橋
十夜とや詠ねよ月見する念仏

依院そらの空も移し十夜八
八十一番　日蓮忌
左　勝　狐塚風之
俤今まておるひまつり日蓮忌
右　杉器風移
題目ぬ文字も彼りやいち新議
片意地よ何てひすら日蓮忌
八十二番　寒草
左　勝　浦人浅菊
大はる此退うくしくお麒麟草
右　鳴河気蒲
みな枯ていつさら見めかくて蓼

夜うまでいは雪る馬や追付きえ　京よ

八十三番　大根

左　　二沼風芦

川畑や土より出て五大根

右　勝　　仁綱風鴎

寒乃中かれ根さしや八丈大根

寒とあん道とふみまひし八丈大根

八十四番　紙子

左　勝　　石関君節

けふの力何しんかかの八帋子哉

右　　　中寺風蕉

風をよけ面をいるゝかみこ哉

世よ言はわかん限をほ子哉

八十五番　衾

左　　菊田宗閑

夜球ゝ旅覚て言や紙ふすま

右　勝　　小川柳橋

浪深やまくらふ出にほはら哉

出去花へもまくら小衾紙ふすま

八十六番　炭

左　持　　狐塚風孔

枝炭乃おこるやむれしひらくる日

右　　　松岩風跡

なかれてや見えをはまる炭から

二尺乃雪よとう行人もなし
八十七番　炭焼
左　湊乃月渓菊
むかし秋ひまをねせし炭さく行衣
右　勝　鳴海宗蘭
障子越やきさ隣よ至炭焼
炭焼入てくたかり心や至こて門
八十八番　水鳥
左　勝　二辰風芦
水鳥や岸乃くほまはなかりし水紋
右　江綱風鳩
おもしろ風毛ふ深や霜乃都る

水鳥乃親流はひやとんくゝる
八十九番　氷
左　花園宮駒
水こゝるほのうし丸井や根水まよ
右　勝　中寺風蕉
いてはくや海すこしある硯石
硯水よ心をこゝて弥うれし
九十番　霰
左　勝　菊田宗圓
まんまるや晴面りう入てり霰釜
右　小川柳橋
数ゝ守ゝやよ玉もゆに深速浦

茶湯乃うへまてつり竈釜
九十一番　雪
左　勝　楓堀風宗
あかつきゝく声もほのかに雪の響
右　松居風仙羽
雪乃人浴や揃ひりぬ鼻の音
　発句まつ雪れ声ある雪の響
九十二番　絶穀寄
左　持　淺見川雲菊
朝すゝやおまさ山雪れ松乃雪
右　鳴河紫篇
雪れ松知人ぞるゝすきれ友

炉のまきれ冬ともしらぬ宮亭之
九十三番　鑪
左　二保風笑
猫恐やよるはしりぬ雪鑪
右　仁洞風鴻
住かねしや房る諸乃居鑪
　貴賤やよ多乃つゝむ宮鑪
九十四番　初鯨
左　花周堂印
初鯢つくや魚鱗よときれ声
右　勝　中る風真
寒くれし怒し婦ゑや初鯨

流しけよも二六一乃けふの神くら

二十五番　寒作酒

左　勝　菊思園

白酒や音をとらへて衣流りけり

右　小川柳橋

酒蔵や音も風になる寒作り

酒まもり見よとれやてる作り

二十六番　神楽

左　瓶塚風之

おもしろく夜毎にまさる神楽笛

右　勝　松呂風枝杉

玉垣や松寒うして神楽笛

ありあけもかすみに通ふ神楽笛

二十七番　衣配

左　持　懐凡川楽菊

折よあふ音をちらしや衣くばり

右　鳴河はふ蕭

深色も流しやあらし衣くばり

一かさね身よりみせしる衣配

二十八番　煤掃

左　勝　二瓶風笋

古文や著ましる煤はらひ

右　仁綱風鶴

箒木やそらなまみれし煤はらひ

あらしみなくや玉垣すゝひ
九十九番　良谷
左　花園富駒
若ぬ其花しすく知良谷呈
右　勝　中島風荘
花そうまかりへはまよ次良谷呈
かゝまて九十九めてゝし良谷呈
百番　家書
左　持　菊田保閑
大津馬や一陸まつゝく風雪
右　小川柳樒
まつへし鳴ものはすゝ八二本松

めてしや風まつて書畢